中学２年　国語科　教材別テスト⑩　「漢詩の風景」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「漢詩の風景」（光村図書『国語２』）

【このテストの使い方】

教科書の**現代語訳や鑑賞文は載せていません。『国語２』の「漢詩の風景」のページを開いたまま**解答します。問題用紙にのせた三首の**白文と書き下し文**は、昔から伝わる唐の詩そのものです。

この教材は、①**漢詩の形式（絶句・律詩／押韻・対句／起承転結）**という**知識**と、②**景色を描くことで心情を表す**という**読み取り**の、二つを行き来しながら学ぶところに特徴があります。大問二・三で用語を固め、大問四で三首を読み比べる構成にしています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問／①～⑩読み・⑪～⑳書き）	１点×20＝ 20点
	二	漢詩の形式の用語（絶句・律詩／句数と字数／起承転結／押韻／対句／聯）	２点×９＝ 18点
	三	漢文の基礎と語句（白文・訓読文・書き下し文／返り点／置き字／唐・詩仙・詩聖）	２点×６＝ 12点
思考・判断・ 表現 50点	四	「春暁」「黄鶴楼送孟浩然之広陵」「絶句」の読解（12小問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　**一句の字数**と**句数**から、五言絶句・七言絶句・五言律詩・七言律詩を正しく区別できるか。

②　**押韻**の決まり（絶句は第二句末と第四句末、七言ではさらに第一句末）を、実際の詩で確かめられるか。

③　**起句・承句・転句・結句**という構成をつかみ、とくに**転句で内容が大きく転じる**ことに気づけるか。

④　白文・訓読文・書き下し文の区別、**返り点**（レ点・一二点）の読む順序、**置き字**という漢文の約束

を理解しているか。

⑤　三首をくらべ、**景を描いて情を語る**（叙景の中に心情をにじませる）という漢詩の手法を、自分の言葉で説明できるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	かんし	⑪	詩人
②	あかつき	⑫	更ける
③	しょしょ	⑬	慕う
④	せきべつ	⑭	叙景
⑤	おさな（い）	⑮	奪われる
⑥	ゆうだい	⑯	故郷
⑦	ほ	⑰	友情
⑧	えが（く）	⑱	輝く
⑨	ふぜい	⑲	訪れ
⑩	ひび（く）	⑳	暗唱

小計　20点

【注意したい字】

②「暁」は「あかつき」。「春暁」という語では「ぎょう」と音読みするので、訓読みとの区別に注意。③「処々」は「しょしょ」。「処」を「どころ」と読まないこと。⑤「幼い」は「おさない」。送りがな「い」まで必要。⑥「雄大」は「ゆうだい」。「雄」の左側は「左」の形。⑨「風情」は「**ふぜい**」。「ふうじょう」「ふぜん」と読む誤りが多い。⑫「更ける」は送りがな「ける」まで。「夜が深ける」は誤り。⑬「慕う」は送りがな「う」まで。「募う」「墓う」と書き誤らないこと。⑭「叙景」は「**じょけい**」。「叙」の右側は「余」。⑮「奪われる」は「大」の下が「隹」ではなく「寸」をふくむ形（奪）。⑱「輝く」は送りがな「く」まで必要。「輝」は「光」＋「軍」。⑲「訪れ」は送りがな「れ」まで必要。⑳「暗唱」の「唱」は口へん。「暗誦」も意味は同じだが、教科書体では「暗唱」。

二　漢詩の形式の用語　（２点×９＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**五言律詩**	「五言」＝一句の**字数**が五字。「律詩」＝全部で**八句**。字数が先、句数があと、という名前のつくりで覚える。
(2)	**七言律詩**	「七言」＝一句七字、「律詩」＝全部で**八句**。五言絶句・七言絶句とあわせ、四種類を表にして整理しておくこと。
(3)	**五字＝五言** **七字＝七言**	一句の字数で呼び名が決まる。**五字＝五言**／**七字＝七言**。これに句数（絶句＝四句・律詩＝八句）の名をつないで「五言絶句」のように言う。両方そろって２点（片方だけは１点としてもよい）。
(4)	**起句・承句・転句・結句**	第一句＝起句（歌い起こす）、第二句＝承句（受けて進める）、第三句＝**転句**（内容を転じる）、第四句＝結句（まとめる）。四つそろって２点。順序がちがえば０点。
(5)	**聯（連）**	律詩は八句を二句ずつ四つに分け、順に**首聯・頷聯・頸聯・尾聯**と呼ぶ。「連」と書いても正答。
(6)	**押韻**	句末に同じ響きの音をそろえること。「韻をふむ」とも言う。詩に一定の**リズム（調子）**が生まれる。
(7)	**イ**	絶句の原則は**第二句末と第四句末**。「エ　全ての句」は誤り。
(8)	**第一句**	一句が七字の詩（七言絶句・七言律詩）では、(7)に加えて**第一句末**でも韻をふむのが原則。律詩では偶数句末がすべて韻をふむ。
(9)	**対句**	語の組み立てや意味が対応する二句を並べる技法。**均整（つり合い）**のとれた感じと、場面の広がりを生む。読み「ついく」。

小計　18点

三　漢文の基礎と語句　（２点×６＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**①イ　②ウ　③ア**	何もつけない漢字だけの文が**白文**。それに句読点・返り点・送り仮名を加えたものが**訓読文**。訓読文を日本語の語順で漢字と仮名に書き改めたものが**書き下し文**。三つそろって２点。「白文→訓読文→書き下し文」という**順番**で覚えるとよい。
(2)	**ア**	レ点は、**すぐ上の一字**に返って読む印。イは一・二点のはたらき。
(3)	**高　→　楼　→　登**	返り点のついていない字から上から順に読む。「登」には〈二〉があるので飛ばし、「高」を一字目、〈一〉のついた「楼」を二字目、最後に〈二〉の「登」を読む。書き下せば「高楼に登る」。三字の順序がすべて合って２点。
(4)	**置き字**	書かれてはいるが訓読のときに**読まない字**。「而」「於」「乎」「焉」など。送り仮名の形の中に意味が吸収されている。
(5)	**李白＝詩仙　／　杜甫＝詩聖**	李白は自由で雄大な詩風から**詩仙**、杜甫は人の世の苦しみを見つめた作風から**詩聖**と呼ばれる。二人そろって２点。入れちがいは０点。
(6)	**唐**	三人はいずれも**唐**の詩人で、漢詩が最も栄えた**盛唐**と呼ばれる時代に活躍した。「唐」の一字で正答。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【形式の見分け方・三手順】

①　**一句の字数を数える**（五字か七字か）→「五言」「七言」が決まる。②　**句の数を数える**（四句か八句か）→「絶句」「律詩」が決まる。③　**句末の字の音をたしかめる**→押韻の位置を確認する。この順番で見れば、どんな詩でも形式を言い当てられる。

四　「漢詩の風景」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**【A】孟浩然** **【C】杜甫**	【A】「春暁」は孟浩然、【B】「黄鶴楼送孟浩然之広陵」は李白、【C】「絶句」は杜甫。**二つそろって3点**（片方だけは1点）。「孟」の下は「子」、「浩」はさんずい、「甫」は「補」と書かない。
(2) 3 点	**五言絶句**	一句五字（春眠不覚暁）×四句。字数と句数を数えれば決まる。「五言律詩」「七言絶句」は0点。
(3) 4 点	**ア**	第二句「処処聞啼鳥」＝**あちこちで鳥の鳴く声**が聞こえる。眠ったまま、耳だけで朝を感じているところがこの詩の味わい。イの「風雨の音」は第三句で、しかも**昨夜**のことなので誤り。
(4) 4 点	**ア**	第三句（転句）で、それまでの「春の朝の眠り」から話題が**昨夜の風雨**へと大きく転じ、結句で「花はどれほど散ったのだろう」と**散った花**へ思いが向かう。イ「今日の天気」、ウ「鳥の行き先」は本文と無関係。
(5) 5 点	**（例）春の朝の眠りの心地よさを楽しみつつ、春が過ぎてゆくのを惜しむ心。（32字）**	「**春の朝の眠り（朝寝）の心地よさ**」（2点）＋「**春が過ぎゆくのを惜しむ・花が散るのを惜しむ**」（3点）の二点で採点。 どちらか一方だけなら半分の得点。「鳥がかわいい」「雨がいやだ」など、春のうつろいを惜しむ心に触れていないものは0点。「**～心。」で結んでいない**ものは－1点。二十五～三十五字から外れたものは－1点。
(6) 4 点	**七言絶句　／　楼・州・流**	一句七字×四句なので**七言絶句**。七言では**第一句末**も韻をふむので、第一句末「楼」・第二句末「州」・第四句末「流」の**三字**。形式（2点）＋押韻の字（2点）。**三字そろって**はじめて押韻の2点。「楼・州」の二字だけ、または第三句末「尽」を入れたものは0点。
(7) 5 点	**（例）舟の帆が見えなくなるまで見つめ続け、友との別れをいつまでも惜しむ気持ち。（36字）**	「**舟（帆）が見えなくなるまで見送る・見つめ続ける**」（2点）＋「**別れを惜しむ・名残惜しい・友を思い続ける**」（3点）の二点で採点。 「さびしい」「悲しい」だけで、**見つめ続ける視線**に触れていないものは2点。「友が無事に着くか心配」は0点。「**～気持ち。」で結んでいない**ものは－1点。三十～四十字から外れたものは－1点。

(8) 4 点	**ア**	第四句「惟見長江天際流」＝**ただ**長江が空の果てへ流れていくのが見えるだけ。舟が見えなくなっても、なお同じ方向を見つめている。「惟（ただ）」の一字に**惜別の情**がこもる。
(9) 3 点	**ア**	【C】には固有の題がなく、**詩の形式名「絶句」がそのまま題として使われている**（無題の詩）。イ・エは「絶」の字から意味を想像した誤り、ウは根拠がない。

四　「漢詩の風景」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 4 点	**然・年**	五言絶句なので**第二句末「然」**と**第四句末「年」**の二字。二字そろって４点。第一句末「白」・第三句末「過」を入れたものは０点（七言とちがい、五言では**原則として**第一句末は韻をふまない）。 なお【A】「春暁」は第一句末「暁」も韻をふむ例外（首句入韻）なので、押韻を答えさせる設問には用いていない。
(11) 5 点	**（例）碧い川や青い山、白い鳥と燃えるような花という美しい春の景が、故郷に帰れない愁いを引き立てている。(48字)**	**「碧・青・白・赤（燃えるような花）という色鮮やかな春の景色」**（２点）＋**「故郷に帰れない旅人の愁い・いつ帰れるのかという思い」**（２点）＋**「美しい景が、かえって愁いを深めている（景と情の対比)」**（１点）で採点。 景色の説明だけ、または心情だけのものは２点どまり。四十～五十字から外れたものは－１点。
(12) 6 点	**（例）【B】 舟が消えるまで見つめ続ける姿から、言葉にしない友への思いの深さが伝わってきたから。(41字)**	**【ルーブリック】** 記号を書いている（１点）／**詩の中の具体的な表現・情景**を取り上げている（２点）／**自分がどう感じたか**を自分の言葉で述べている（２点）／字数・文末が整い、誤字がない（１点)。 Ａを選んだ例「眠ったまま鳥の声を聞くという静かな描き方で、春の朝のやわらかさが伝わってきたから。(41字)」。Ｃを選んだ例「鮮やかな春の景色のあとに、いつ帰れるのかという一言が置かれ、愁いの深さが心に残ったから。(44字)」。 詩に触れず感想だけのものは２点どまり。四十～五十字から外れたものは－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. **形式名は「字数＋句数」**の順。一句の字数（五言・七言）を先に、句数（絶句＝四句・律詩＝八句）をあとに言う。
2. **押韻の位置は、五言と七言でちがう**。絶句は第二句末・第四句末、七言ではさらに**第一句末**が加わる。「絶句」（杜甫）は**然・年**の二字、「黄鶴楼…」（李白）は**楼・州・流**の三字。
3. **第三句（転句）が山場**。「春暁」では昨夜の風雨へ、「絶句」では帰れない我が身へと、ここで世界が切りかわる。
4. 「春暁」は「**春の朝は気持ちいい」で終わらせない**。散った花を思う結句まで読んで、はじめて**春を惜しむ心**が見えてくる。
5. 「黄鶴楼…」で問われるのは**見つめ続ける視線**。舟が消えてもなお川を見ている――その**動かない姿**が惜別の情そのもの。
6. 「絶句」の美しい春の景は、**楽しさの表現ではない**。美しいからこそ、**帰れない旅の愁い**がいっそう深くなる（景と情の対比)。
7. **対句**の読みは「ついく」、**叙景**は「じょけい」、**対句**は「対比」ではない。語句の読み・書き分けで失点しやすい。
8. **白文→訓読文→書き下し文**の順と、返り点（レ点＝すぐ上の一字／一・二点＝へだてて上に返る)、**置き字は読まない**という三つの約束を、必ず暗記しておく。